

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

#### 編 集 後 記

米国ウィスコンシン医科大学の小児科准教授が「近年、映画に登場する医師のイメージが損なわれている」とする研究レポートを専門誌に発表したという記事を読んだ。彼によると、昔の映画に登場する医師は聡明で勤勉な人物と描かれていたが、近年の映画のほとんどは、医師を強欲で、一般の人が愉快と思わないことを笑うような変人として描いているという。医師に対するイメージ悪化を懸念する彼の推奨する映画は、「赤ひげ(1965)」「ホスピタル(1975)」「救急病棟(1994)」などであるという。

日本ではどうだろう。「白い巨塔」が印象深いとしても、その中には良心的で勤勉な医師像も描かれている。米国ほどひどい状況ではないと思うが、今後徐々に同じような状況になっていくことが心配される。メディアの持つボディブロー的影響は想像以上に大きい。

ところで、泌尿器科医は映画にはあまり出てこない。テレビドラマに出たこともあまり記憶にない。そのなかで「泌尿器科医・一本木守」というコミック誌があるのをご存知ですか。女性漫画家書いているコミックで、現時点で9巻まで発行されているので暇な時にでも読んでみてはいかが。

(小川 修)